

原 著

大学生の精神保健に関する研究

—— 機能不全家族とアダルト・チルドレン ——

笹野友寿¹⁾²⁾ 塚原貴子³⁾

川崎医療福祉大学 学生相談室¹⁾

川崎医科大学 地域医療学教室²⁾

川崎医療短期大学 看護科³⁾

(平成10年5月20日受理)

Mental Health of College Students

—— Dysfunctional Families and Adult Children ——

Tomohisa SASANO¹⁾²⁾ and Takako TSUKAHARA³⁾

1) *Department of Counseling Room,
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan*

2) *Department of Family Practice
Kawasaki Medical School
Kurashiki, 701-0192, Japan*

3) *Department of Nursing
Kawasaki College of Allied Health Professions
Kurashiki, 701-0194, Japan*

(Accepted May 20, 1998)

Key words : dysfunctional families, adult children, AC, ACOD, ACOA

Abstract

This study was carried out to screen the mental health of nursing college students. Fifty-six nursing students underwent psychological testing using the Dysfunctional Family Scale (DFS) and Adult Children Scale (ACS). DFS and ACS were correlated statistically. The statistical DFS scores were as follows ; median 1.000, mean 3.125, standard deviation 4.121, skewness 1.670 and kurtosis 5.766. Therefore, it is suggested that students with a DFS score above 4 points should be interviewed by a psychiatrist or clinical psychologist. The statistical ACS scores were as follows ; median 7.000, mean 7.196, standard deviation 4.757, skewness 0.518 and kurtosis 2.708. Based on these results, it is suggested that students with an ACS score above 12 points should be interviewed.

Also, there appears to be a heterogeneity between the two groups, i.e., the ACOA type and the ACOD type.

要 約

看護大学生56名を対象として、機能不全家族とアダルト・チルドレンの関係について調査した。機能不全家族尺度 (DF 尺度) とアダルト・チルドレン尺度 (AC 尺度) の間には、有意な正の相関が認められた。DF 尺度で特に注目すべき項目は、「期待が大きすぎて何をやっても期待にそえない家庭」「他人の目を気にする表面だけ良い家庭」「嫁姑の仲が悪い家庭」であった。また、AC 尺度で特に注目すべき項目は、「私は常に承認と称賛を求めている」「私は過剰に責任を持ったり過剰に無責任になったりする」「私は衝動的である」であった。そして、データを解析した結果、大学生の精神保健活動において、DF 得点が4点以上で、AC 得点が12点以上の者については、アダルト・チルドレンを念頭に置いて、精神科医または臨床心理士が面接することが望ましいと思われた。なお、アダルト・チルドレンの ACOD と ACOA の間には、異種性が存在する可能性が示唆された。

はじめに

機能不全家族 (Dysfunctional family) に育って大人になった人たちは、「Adult children of dysfunctional families (ACOD)」と称されるが、略してアダルト・チルドレン (Adult children) または AC とも呼ばれている。アダルト・チルドレンは、心の柔軟性に欠け常に生きづらさを感じ、時に物質やプロセスへの嗜癖に陥ったり、「共依存」と呼ばれるような対人関係の歪みを呈する。機能不全家族とアダルト・チルドレンの関連性については、臨床経験から推察されて

はいるが、実証的な研究は充分になされていない。そこで本研究では、看護大学生を対象に、両者の関連性について調べてみた。

なお、アダルト・チルドレンはナース、心理カウンセラー、ケースワーカーなどに代表される援助専門職を目指すことが多いとされており、医療福祉系の大学生の精神保健活動にとっては、

表1 機能不全家族尺度 (DF 尺度)

DF 1	親がアルコールなどの依存にとりつかれている家庭。
DF 2	よく怒りが爆発する家庭。
DF 3	冷たい愛のない家庭。
DF 4	性的・身体的・精神的な虐待のある家庭。
DF 5	他人や兄弟姉妹といつも比べられる家庭。
DF 6	あれこれ批判される家庭。
DF 7	期待が大きすぎて何をやっても期待にそえない家庭。
DF 8	お金・仕事・いい学校だけが重視される家庭。
DF 9	他人の目を気にする表面だけ良い家庭。
DF 10	親が病気がち・留守がちな家庭。
DF 11	親と子の関係が反対になっている家庭。
DF 12	両親の仲が悪い・けんかの絶えない家庭。
DF 13	嫁姑の仲が悪い家庭。

(はい：2点，どちらともいえない：1点，いいえ：0点)
(西尾論文¹⁾をもとに作成)

表2 アダルト・チルドレン尺度 (AC 尺度)

AC 1	私は正しいと思われることに疑いを持つ。
AC 2	私は最初から最後まで、ひとつのことをやり抜くことができない。
AC 3	私は本音を言えるようなときに嘘をつく。
AC 4	私は情け容赦なく自分を批判する。
AC 5	私は何でも楽しむことができない。
AC 6	私は自分のことを深刻に考えすぎる。
AC 7	私は他人と親密な関係を持ってない。
AC 8	私は自分が変化を支配できないと過剰に反応する。
AC 9	私は常に承認と称賛を求めている。
AC 10	私は自分と他人は違っていると感じている。
AC 11	私は過剰に責任を持ったり過剰に無責任になったりする。
AC 12	私は忠誠心に価値がないことに直面しても、過剰に忠誠心を持つ。
AC 13	私は衝動的である。行動が選べたり結果も変えられる可能性がある時でも、お決まりの行動をする。その衝動性は、混乱や自己嫌悪や支配の喪失へとつながる。そして混乱を收拾しようと、過剰なエネルギーを使ってしまう。

(はい：2点，どちらともいえない：1点，いいえ：0点)
(Woititz 論文²⁾，緒方論文³⁾をもとに作成)

特に重要な概念である。

点, AC 得点とした。

対 象

対象は看護科の短期大学生56名である。全員女性である。全員准看護婦の資格を有している。調査は1年の3学期に行った。

方 法

西尾¹⁾の論文に記載されている事例をもとに、「機能不全家族尺度 (DF 尺度)」を作成した (表 1)。また, Woititz²⁾³⁾の著書に記載されている AC の心理的特徴をもとに, 緒方⁴⁾の訳を用いて, 「アダルト・チルドレン尺度 (AC 尺度)」を作成した (表 2)。各項目について「はい」2点, 「どちらともいえない」1点, 「いいえ」0点で自己記入式に採点し, 合計点をそれぞれ DF 得

結 果

1. 全対象56例に関する解析
 - 1) DF 尺度の項目別データを表 3 に示す。
 - 2) AC 尺度の項目別データを表 4 に示す。
 - 3) DF 得点の度数分布表を図 1 に示す。
 - 4) AC 得点の度数分布表を図 2 に示す。
 - 5) DF 得点と AC 得点の散布図と回帰直線を図 3 に示す。
2. DF 得点が 4 点以上の 17 例に関する解析
 - 1) DF 尺度の項目別データを表 5 に示す。
 - 2) AC 尺度の項目別データを表 6 に示す。
 - 3) DF 得点と AC 得点の回帰直線を図 3 に示す。
3. DF 得点が 3 点以下の 39 例に関する解析

表 3 DF 尺度項目別データ (全対象56例)

項目	平均値±標準偏差	AC 得点との相関関係 相関係数	検定
DF 1	0.125±0.429	-0.048	NS
DF 2	0.357±0.672	0.097	NS
DF 3	0.232±0.467	0.392	p<0.01
DF 4	0.089±0.345	0.166	NS
DF 5	0.411±0.654	0.277	p<0.05
DF 6	0.250±0.513	0.374	p<0.01
DF 7	0.125±0.384	0.513	p<0.001
DF 8	0.214±0.456	0.282	p<0.05
DF 9	0.179±0.386	0.376	p<0.01
DF 10	0.393±0.755	0.211	NS
DF 11	0.107±0.312	0.316	p<0.05
DF 12	0.339±0.581	0.199	NS
DF 13	0.304±0.601	0.361	p<0.01
DF 得点	3.125±4.121	0.415	p<0.01

表 4 AC 尺度項目別データ (全対象56例)

項目	平均値±標準偏差	DF 得点との相関関係 相関係数	検定
AC 1	0.536±0.602	0.332	p<0.05
AC 2	0.661±0.581	0.299	p<0.05
AC 3	0.428±0.599	0.192	NS
AC 4	0.625±0.676	0.115	NS
AC 5	0.214±0.414	0.176	NS
AC 6	1.018±0.798	0.176	NS
AC 7	0.375±0.620	0.109	NS
AC 8	0.304±0.570	0.208	NS
AC 9	0.571±0.735	0.366	p<0.01
AC 10	0.964±0.738	0.283	p<0.05
AC 11	0.536±0.687	0.349	p<0.01
AC 12	0.306±0.464	0.094	NS
AC 13	0.661±0.745	0.334	p<0.05
AC 得点	7.196±4.757	0.415	p<0.01

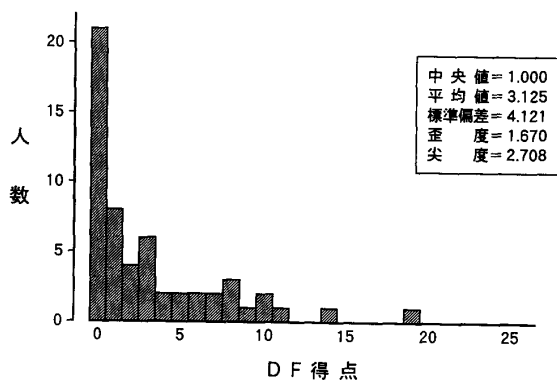


図 1 DF 得点の度数分布表

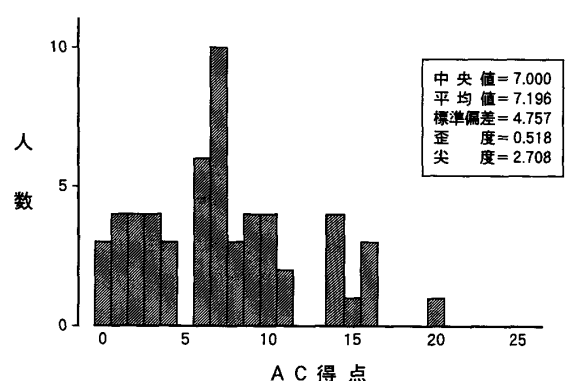


図 2 AC 得点の度数分布表

表5 DF 尺度項目別データ (DF 得点4点以上)

項目	平均値±標準偏差	AC 得点との相関関係	
		相関係数	検定
DF 1	0.353±0.702	-0.308	NS
DF 2	1.000±0.866	-0.269	NS
DF 3	0.706±0.588	0.435	NS
DF 4	0.235±0.562	0.125	NS
DF 5	1.000±0.791	0.309	NS
DF 6	0.706±0.686	0.243	NS
DF 7	0.412±0.618	0.648	P<0.01
DF 8	0.647±0.606	0.137	NS
DF 9	0.412±0.507	0.549	P<0.05
DF 10	1.059±0.966	0.099	NS
DF 11	0.294±0.470	0.447	NS
DF 12	0.824±0.728	0.034	NS
DF 13	0.647±0.786	0.585	P<0.05
DF 得点	8.294±3.820	0.482	P=0.05

表6 AC 尺度項目別データ (DF 得点4点以上)

項目	平均値±標準偏差	DF 得点との相関関係	
		相関係数	検定
AC 1	0.765±0.752	0.178	NS
AC 2	0.824±0.636	0.203	NS
AC 3	0.588±0.712	0.162	NS
AC 4	0.765±0.664	0.054	NS
AC 5	0.353±0.493	-0.025	NS
AC 6	1.235±0.752	0.170	NS
AC 7	0.417±0.717	0.174	NS
AC 8	0.412±0.712	0.320	NS
AC 9	0.824±0.809	0.625	P<0.01
AC 10	1.235±0.664	0.390	NS
AC 11	0.706±0.772	0.710	P<0.01
AC 12	0.412±0.507	0.030	NS
AC 13	0.824±0.728	0.694	P<0.01
AC 得点	9.412±5.635	0.482	P=0.05

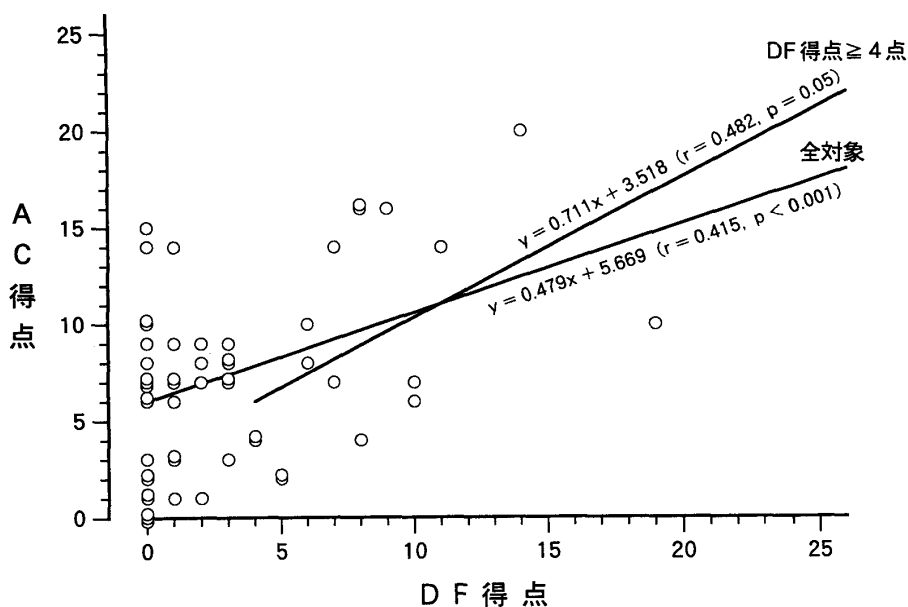


図3 DF 得点と AC 得点の散布図

1) DF 得点

平均値=0.872, 標準偏差=1.128

歪度=0.911, 尖度=2.302

2) AC 得点

平均値=6.231, 標準偏差=4.029

歪度=0.182, 尖度=2.345

3) DF 得点と AC 得点の相関性

相関係数は-0.171で両者に有意な相関は認められなかった。

考 察

1. 機能不全家族とアダルト・チルドレンの関係について

家族システムが健全に機能していない機能不全家族の事例が、西尾¹⁾によって紹介されている(表1)。子供時代にこのような環境で育った大人たちを、「Adult children of dysfunctional families (ACOD)」と呼ぶが、略してアダルト・チルドレン (Adult children) または AC とも呼ばれている。アダルト・チルドレンは人間関

係において「共依存」と呼ばれる歪んだ関係に陥りやすいが、これは他者を幻想的に支配しようとする一方で、他者から必要とされる自分であろうと必死に努力する心理的特徴に由来する。なお、アダルト・チルドレンの心性は、誰でも幾分かはそういう傾向を持っているものであって、病気概念ではないが、最近では解離性障害や多重人格との関連性において注目されている。

Woititz²³⁾は豊富な臨床経験から、子供時代に「アルコール問題家族」で育った大人たち、即ち「Adult children of alcoholics (ACOA)」の心理的特徴について発表している(表2)。そして Woititz は、この特徴は ACOA に限定されず、幅広く ACOD に当てはまるものであると述べている。

本研究において、全対象の DF 得点と AC 得点は有意に正の相関を示し、また、機能不全家族が疑われる DF 得点 4 点以上に限定しても、やはり両者は有意な相関を示した(図3)。Woititz²³⁾の発表したアダルト・チルドレンの特徴は、科学的な裏付けはなかったが、本研究によって、機能不全家族に育ったアダルト・チルドレンは、彼の指摘したような心理的特徴を呈することが確認された。

2. 機能不全家族の特徴について

DF 得点の度数分布表(図1)をみると、平均値=3.125であるが、中央値=1、歪度=1.67、尖度=5.766となっており、全体的に1点前後に集中し、かつ右に尾を引く分布を示している。これらの結果から、DF 得点が1点前後のケースでは、家族システムは健全に機能しているとみなしてよい。反対に、DF 得点が平均値以上、即ち4点以上のケースについては、家族システムが健全に機能していない可能性を疑っておく必要がある。

機能不全家族が疑われる DF 得点 4 点以上のケースにおいて、AC 得点と有意に相関している DF 尺度は、DF 7 (期待が大きすぎて何をやっても期待にそえない家庭)、DF 9 (他人の目を気にする表面だけ良い家庭)および DF 13(嫁姑の仲が悪い家庭)の3項目であった。このような家庭は、少子化、受験戦争の低年齢化、夫婦共働き化、核家族化などが進行しつつある我

が国においては、社会的にさほど珍しいと認識されておらず、また「アルコール問題家族」などに比較して心的外傷体験は軽度であると見なされがちであるため、本人も自分の育った家庭が機能不全家族であるという自覚に乏しい。しかも Woititz²³⁾によると、アダルト・チルドレンは、普通の家族の普通の生活とはどういふものかを判断するための、思考の枠組みがないとのことである。従って、学生相談などの面接場面においては、カウンセラーはそういった視点を見落とさないようにすべきである。

なお、機能不全家族が疑われない DF 得点 3 点以下のケースでは、DF 得点と AC 得点の相関性は認められなかった。ただし、DF 得点が高いにもかかわらず、AC 得点が高いケースについては、他の観点からクライアントを理解していく必要がある。ちなみに本研究においても、DF 得点が3点以下で AC 得点が12点以上のケースは、39例中3例(7.7%)に認められており、カウンセラーによるフォローアップが計画されている。

3. アダルト・チルドレンの特徴について

AC 得点の度数分布表(図2)をみると、中央値=7、平均値=7.196、標準偏差=4.757、歪度=0.518、尖度=2.708であり、比較的正規分布に近い分布を示している。AC 得点が平均値+標準偏差(=11.953点)以上のケースは、全対象では56例中9例(16.1%)、DF 得点4点以上に絞ると17例中6例(35.3%)であった。これらのことより、アダルト・チルドレンのスクリーニングとしては、AC 得点12点以上を目安にすると効率的である。従って、大学生の精神保健活動において、DF 得点が4点以上で、AC 得点が12点以上の者については、アダルト・チルドレンを念頭に置いて、専門的知識を持った精神科医または臨床心理士が面接することが望ましい。

機能不全家族が疑われる DF 得点 4 点以上のケースにおいて、DF 得点に有意な相関がみられる AC 尺度は、AC 9 (私は常に承認と称賛を求めている)、AC 11 (私は過剰に責任を持ったり過剰に無責任になったりする)および AC 13 (私は衝動的である。etc.) の3項目であった(表6)。アダルト・チルドレンの対人関係における基本的特徴は、斉藤⁵⁾によると「他人に必要とさ

れる必要」とのことであるが、AC 9はまさにそういった心理的特性を反映する項目と考えられる。またアダルト・チルドレンは、機能不全家族のなかで「家族英雄（ファミリー・ヒーロー）」とか「支え手（イネイブラー）」という役割を演じることが多いとされている。これは「共依存」と呼ばれる歪んだ人間関係のことであるが、AC 11はそういった傾向を反映する項目と考えられる。またアダルト・チルドレンは、物質やプロセスへの嗜癖という誘惑に対して、衝動的にのめり込んでしまうことが多いとされているが、AC 13はそういった心理的特性を反映する項目と考えられる。

4. アダルト・チルドレンの異種性について

DF 得点4点以上のケースにおいて、AC 得点との相関性が認められなかった DF 尺度の中には、アルコール問題家族に特徴的と思われる DF 1（親がアルコールなどの依存にとりつかれている家庭）や DF 4（性的・身体的・精神的な虐待のある家庭）が含まれていた。中央値は両者とも0であり、平均値は DF 1 = 0.125, DF 4 = 0.089とそれぞれ3番目と1番目に低値であった（表3）。また、歪度は DF 1 = 3.474, DF 4 = 4.069とそれぞれ2番目と1番目に高値で、尖度も DF 1 = 14.212, DF 4 = 19.715とそれぞれ2番目と1番目に高値であった。つまり、DF 1とDF 4は極めて0点に偏った分布を示しており、本研究の対象には ACOA は含まれていないか、含まれていたとしても統計上無視できる範囲であると考えられる。

交叉する報告として、Fisher ら⁹⁾は「アルコール問題家族」に育った ACOA の心理的特徴として、Woititz²³⁾の13項目のうち、AC 1（私は正しいと思われることに疑いを持つ）、AC 3（私は本音を言えるようなときに嘘をつく）、AC 5（私は何でも楽しむことができない）および AC 7（私は他人と親密な関係を持ってない）の4項目を挙げている。この ACOA の心理的特

性は、本研究の ACOD の心理的特性（AC 9, AC 11, AC 13）とは全く異なっている。従って ACOA は、機能不全家族に由来する、という点においては、ACOD と共通のグループとみなすことができるが、心理的特徴においては、ACOA と ACOD は大きく異なっていると考えられる。しかも、アルコール依存症者やその家族は、気分障害（＝躁うつ病）などの精神病負因が高く、精神障害を合併しているケースも少なくない。これらのことより、アダルト・チルドレンを単一のグループとみなすことは困難であり、ACOA と ACOD の間には異種性が存在する可能性が示唆される。

ま と め

1. 看護大学生56名を対象として、自己評価尺度を作成して、機能不全家族とアダルト・チルドレンの調査を行った結果、以下の結論を得た。
2. 機能不全家族尺度（DF 尺度）とアダルト・チルドレン尺度（AC 尺度）は、総得点において有意な正の相関が認められた。
3. DF 尺度で特に注目すべき項目は、「期待が大きすぎて何をやっても期待にそえない家庭」「他人の目を気にする表面だけ良い家庭」「嫁姑の仲が悪い家庭」であった。
4. AC 尺度で特に注目すべき項目は、「私は常に承認と称賛を求めている」「私は過剰に責任を持ったり過剰に無責任になったりする」「私は衝動的である」であった。
5. 大学生の精神保健活動において、DF 得点が4点以上で、AC 得点が12点以上の者については、アダルト・チルドレンを念頭に置いて、精神科医または臨床心理士が面接することが望ましい。
6. アダルト・チルドレンは単一のグループではなく、ACOA と ACOD の間には異種性が存在する可能性が示唆される。

文 献

- 1) 西尾和美 (1995) 共依存症の精神療法. こころの科学, 59, 39-44.
- 2) Woititz JG (1983) Adult children of alcoholics. Health Communication, Florida.

- 3) ジャネット・G・ウォイティッツ (1997) アダルト・チルドレン — アルコール問題家族で育った子供たち —. 齊藤学監訳, 金剛出版, 東京.
- 4) 緒方 明 (1996) アダルトチルドレンと共依存. 誠信書房, 東京.
- 5) 齊藤 学 (1995) 「家族」という名の孤独. 講談社, 東京.
- 6) Fisher GL, Jenkins SJ, Harrison TC and Jesh K (1992) Characteristics of adult children of alcoholics. *J Substance Abuse*, 4, 27-34.